

5/7(土) まいど! 倫理号です。大型連休も残す所。今日、明日、天気も良く有意義でなかつたやとないです。謙虚な心があるならば、信念を持つ

いざすネ。 幸せ運ぶマホー鳥

2022. 5. 7~5. 13

今週の

倫理

5月のテーマ | 信念を持つ

1280号

毎月第一週に配信する「今週の倫理」では、倫理研究所第二代理事長・丸山竹秋（一九二一—一九九九）のことばを掲載いたします。

目ざすところは最低、いや、その当てもない。信念はガタガタ、そのくせ、頭は高く、威張りたがる……こういう人が多いのではなからうか。

それでいて、ほんとうに幸福だと思ってるのなら、何も言うことはない。だが、ほんとうの幸せは、そこにはない。幸福とは、そんなところにはない。もちろん、生きがいもない。喜びもない。

「志はより高く、信念はより強く、頭はより低く」、これで人生の大河を渡っていく。ここに深く、ゆたかな喜びが湧くのである。

その志は低いよりも、高いほうがよい。志も何もなく、低迷しているようでは、喜びが湧き出てこない。かけがえのない自分の人生、生命というものを、ピリッと張って生きぬいていくところに、喜びがある。

仕事でも、志すところを高く持って、張り切つてやらなければダメだ。仕事はたんに職場だけにあるのではない。子育て、洗濯、掃除……そのほか、いろいろとある。

とくに世界の平和、人類の幸福といった大局的な志を高く持って、自分の仕事を通じて、いかにそれらに貢献するかを目指して働くことは、大きな幸福である。道路のゴミひとつ片づける中にも、志を活かすことはできるのだ。これが世界の美化、平和



志は高く、頭は低く

丸山竹秋

の大建設につながるという自覚ありや、否や、である。

自分の志を高く保つには、強い信念が必要だ。その信念は、日々の実践によつて練り固められる。実践とは、まごころからの実行のことだ。ただ「信念を強くせよ」と言われるだけでは、どうしようもあるまい。できるかどうかは、やってみなければ分からないのは当然だ。しかし引き受けた仕事は「やりましょう」と素直に、そのままスーツと受けて、そして全力をつくす。雑念いっばいでやるよりも、志のまま素直に実践する。そこに強い信念が湧き出すのである。無気力、腑抜けの姿勢では、何もできはしない。まわりも動かない。

志が高ければ高いほど、頭は低くなる。「頭を低く」とは心の姿勢のことだ。威張るな、うぬぼれるなということだ。

「私はこのように志を立てて、毎日働かせていただいております。いろいろと至らないところはたくさんあることと思えます。どうぞ気がつかれましたら、お教えください。よろしくお願ひいたします」

という謙虚な心、これがなくてはせっかくの志も挫折する。

志を高く持ったら、人々から教えを聞くとうとし、忠告も受けつつ社会のために尽くそうとするとき、その志は生きる。これはすべての国の人々に通ずる人生の軌範であり、個人の生きがいのもとであり、地球繁栄のかなめとなる。

『あなたは生命の元を見つけたか』より